



# 少年選抜チームを組織

神戸市協会 12月末には清水遠征も  
少年委員会

所属チームとは違ったふん囲気の中で指導し、代表選手としての自覚をもたせ、神戸市を代表する強いチームをつくりたい。また、そこで得たものを所属チームの仲間に教え、リードしていくことのできるすぐれた選手を育てよう——というのが選抜チーム編成のねらいである。

7月24日に第1回目の練習会が行われた。所属チームの指導者から推せんされた選手が

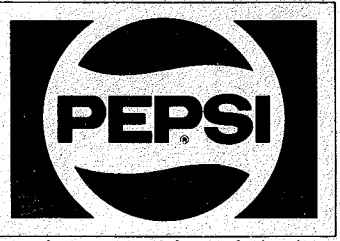
集まったが、選ばれる基準は技術はもちろん協調性、自主性などサッカー選手として幅広い能力をもっていることが条件になっている。この日はチームをいくつか作り、淡路から遠征してきたチームと試合を行ったが、その後、計画的な練習日程に従ってトレーニングがまわっている。8月16、17の2日間ははじめての合宿を行った。少年グラウンドでの練習のほか、宿舎の西神戸YMCAでは夕食のあと

映画「ペレのサッカー」と「イマジネーションサッカー」をみて勉強したり、ミーティングでサッカーについていろいろな意見を出しあった。

これからのスケジュールは、練習試合などの結果をみて代表候補を現在の約60人からしだいにしぼって、最終的には15、16人でチームをつくり、12月末には静岡県清水市で開かれる清水招待サッカー大会に参加する予定になっている。選抜チームは今年をはじめ生まれたものであり、これが2年、3年と続いていった時、大きな成果が得られるだろうと関係者は期待している。

左：試合のあと先生の注意をきく選手たち  
上：レベルアップはまず1対1の練習から  
(いずれも8月16日、御崎少年グラウンド)

カー王国神戸をささえる名選手がぞくぞくと生まれることだろう。なお、後期は9月13日から6回にわたって行われる。(カ)



受講者＝20人

越智静雄、風間友三、金子堅太郎、草柳勇、小谷昇、杉村昌幸、高田宏、粕谷八郎(以上高倉台小)尾井四郎(北野小)、鶴谷之人(成徳小)、宮本進次(多井畑小)、伊藤吉和(箕谷小)、菊井博昭(須磨クラブ)、桜井研二(丸山小)、増井聖一(神戸SS)、清沢崇、岡俊彦、喜田充、谷後英、木村三千雄(以上神戸FC)

## 編集後記

赤い花をつけた まんじゅしゃげに秋の風がさらりと流れ、ことし生まれの赤ちゃんコオロギも鳴き声がうまくなってきた ♣神戸市協会座談会の2回目は高校委員会。小学校のサッカーがかなり普及してきたのだから、高校ではもっとすばらしいサッカーを披露してもらいたいが、全国レベルと比較するとまだまだ…。複雑な事情もあるが、それを克服するだけのがんばりがなければ、道が開けないのも事実。神戸市のチームよりも条件がととのっているとは思われない島原商が総体で全国優勝を果たしたのは、その重要性を如実に物語っているのではなかろうか

♣座談会では貴重なご意見を伺ったのにもかかわらず、編集のまささと紙面の都合で十分に表し尽くせなかった。おおびしななければならない。次回は中学委員会にスポットをあてる予定である ♣ペレのさよならゲームインジャパンが大変な人気を集めている。サッカーの王様と皇帝、それに日本が生んだ世界のストライカー釜本選手の対決は、いつまでも生きたレンズに焼きつけておきたい。(ウエノ)

# 真夏の夜に励む

神戸市少年指導者講習会

実技と講義に20人が参加

52年度神戸市少年サッカー指導者講習会は6月14日から始まり、7月19日に前期の日程を終了した。この講習会は年々盛んになる神戸の少年サッカーをより充実させるために、神戸市協会が4年前から毎年開講しているも

ので、講師は一北四郎氏をはじめ少年指導のベテラン黒田和生氏、加藤寛氏、岡本隆英氏ら日本協会公認コーチがあたっている。

今年も熱心な指導者20人が会場の神戸市立御影工高に集合し、週1回のナイターでハードスケジュールを消化した。内容はサッカー理論と指導法に分かれ、それぞれ講義と実技からなっている。受講者の中には、冬から始まる神戸市少年団サッカーチームの指導を近くの小学校から頼まれて、サッカーとはまったく初対面ではあるが、子供たちに少しでも正しいサッカーを指導できるようにと参加している人もおり、サッカーに燃やすまじしは真剣で、講師の弁にも自然と熱がこもる。

サッカー王国の再建に指導者のレベルアップが必要なのはいうまでもない。サッカーに對す正しい理解と指導者の情報交換、そしてこれらの指導者に育てられたチームが切磋琢磨(せっさたくま)してこそ、神戸市のサッカーが盛りあがる。きつと近い将来、このような講習会を受けた指導者のチームから、サッ

## 個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として50円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。

〒657 神戸市灘区上野通6丁目3-12  
加藤 正信 ☎ 078(861)3100

なお、数人分をまとめて申し込まれる場合は、郵送料の割引がありますのでご連絡ください。

仕事を終えたあとの受講はつらい。特に、年輩の指導者にとって実技はかききびしい内容だが、歯をくいしばってがんばった。写真は一日のスケジュールを消化したあと、講師の加藤寛氏(左端)の話をきく受講生(7月5日、御影工高)



1977 9 月号

発行所 神戸市サッカー協会  
神戸市北区有野台7丁目16-6  
〒651-13 ☎ (078)981-5867  
発行人および編集人 加藤正信  
神戸市灘区上野通6丁目3-12  
〒657 ☎ (078)861-3100

毎月1回10日発行 購読料1部20円

中学総体  
兵庫県

炎天下で熱戦を展開

# 鷹匠2度目の栄冠



## 御原に逆転勝ち

第21回兵庫県中学校総合体育大会 兼 第29回兵庫県中学校サッカー大会は8月5、6日、揖保郡御津町民グラウンドで県下各地区の代表8チームが参加して行われ、神戸代表の鷹匠中学が決勝で御原を2対1で下し、4年ぶり2度目の栄冠に輝いた。

決勝戦は8月6日、鷹匠と淡路代表の御原との間で争われ、鷹匠が前半立ちあがりの失点をはね返して見事優勝を果たした。

▷決勝

鷹匠 2 (1-1) 1 御原

技と力、両チームが持ち味を十分に発揮した優勝戦らしい好ゲーム。御原は前半8分に小幡のクリーンシュートで先行したが、鷹匠も21分にセンタリングからのボールを小林が決めて追いつき、リズムを取り戻した。後半5分には中央から三好が強引に割って入り、待望の勝ち越し点をマーク、御原の反撃を準備陣の健闘でかわして逃げきった。

鷹匠はこれで先の全国中学大会兵庫県予選に続いて、2冠を手にしたことになる。選手

の一人ひとりの基礎がしっかりしており、相手が追いつめてきても落ちついてできるボールコントロールは、中学生としては合格点を与えることができる。このため、どんなチームに対しても自分たちのペースをくずすことなくゲームを展開できたことが第一の勝因だ。選手の構成を見ると、神戸市少年団リーグに参加していた成徳小と灘小の出身者が大半を占めており、小学時代に体でおぼえたボールコントロールが生きている。

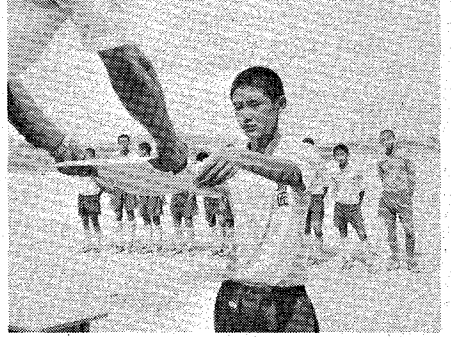
御原が新しい淡路のサッカーを披露

一方の御原は先制ゴールを決めながら涙をのんだが、鷹匠にひけをとらないすばらしいチーム。小幡らを中心とするハーフ陣は鷹匠と対等に戦っており、特に左右のウイングに出す効果的なロングパスは目をみはるものがある。これが御原の攻撃の特徴で、ゴール前にあげたボールをねらうが、長身の鷹匠バックスのかたい守りにあって得点を重ねることができなかった。御原の選手も鷹匠と同じよ

うに小学時代からボールをけっており、ほとんど全員が湊小学校の出身である。そういったよい下地に加えて、豊田先生のすぐれた指導でぐんぐん力をつけ、数年前までの淡路の力強いサッカーとは異なるセンスのあるサッカーを身につけていた。このほかのチームでは、優勝候補の一角にあげられていた尼崎の大成が、得点差こそ開いたが鷹匠と見ごたえのあるゲームを展開し、また浜坂も1回戦で鷹匠に食いきがり、後半だけでは2対2の互角の勝負を戦ったのが目についた。

兵庫の中学サッカーは鷹匠、御原あたりをトップグループとして、レベルは高いものをもっている。また、県内の地域差がなくなり実力が平均化しているのも、ある意味では好ましい傾向といえるだろう。ただ、守備の弱さが少し気になる。中学3年では守備の基礎について正しくマスターしておく必要がある。それに接触プレーに十分耐える訓練も大切だ。走りながらのせり合いに簡単に負けるようでは、より高いレベルの選手へ成長していく上でストップがかかってしまう。

選手のマナーについて、閉会式の中で徳審判長から異例の注意があったが、相手のチームや選手をやじる場面がみられた。無意識にでた言葉ではあろうが、見苦しい光景だ。ファイトは心に秘め、頭脳は常に冷静であるよう自覚してもらいたい。



表彰状をうけるとの鷹匠の寺内主将とイレブン(8月6日、御津町民グラウンド)

## 上位進出なるか

青森国体出場の少年、教員

第32回国民体育大会は同大会史上最北の地青森県で10月2日から7日まで行われるが、サッカー競技には兵庫県から少年と教員の2チームが参加する。(2面に関連記事)

少年チームは7、8月に静岡遠征を中心に20試合を消化し、また関西予選のあとは韓国へ飛んで釜山商高、東萊高と対戦するなど精力的なトレーニングを積んだ。全員が意欲的に最後の調整に励んでおり、大会での健闘を

祈りたい。

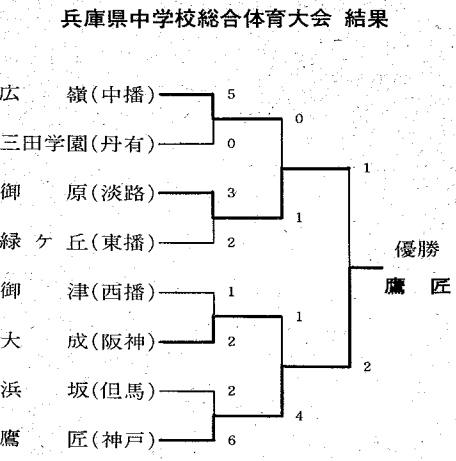
少年

【監督】佃幹夫 【選手】厚田太加志、○高浜宏吉、○新谷祐幸(以上神戸)、立花政明、森雅博(以上明石南)、鍋島昭久、○原田順一(以上県芦屋)、石川一弥、岡村敏幸(以上須磨)、松山伸(洲本)、安富義和(三原)、浜田浩二(御影工)、高橋誠(尼崎東)、森井彦晴(関学)、鬼塚和幹(報徳)

○は2年生

教員

【監督】岡本隆英 【選手】中野孝、志賀守、八木重光、尾西清隆、吉岡修次郎、山田一弘、関根繁、柴田寛、山本高史、瀬川肇博、永浜和紀、玉置雅美、高田裕士、山田仁彦、清末陽一





# 健闘及ばず 西淡、鷹匠、神戸

## 3つの全国大会出場の兵庫代表

猛暑が続く8月は学校体育の大会が集中する。8月1日にともにスタートを切った全日本少年大会と全国高校総体がそれぞれ6日、8日まで、また全国中学校大会は8月16日から20日まで行われ、いずれも小、中、高校生が熱戦を展開した。

この3つの全国大会に兵庫県からは西淡スポーツ少年団、鷹匠中学、神戸高校が出場したが、健闘及ばず上位進出はならなかった。

全日本少年大会は32チームが8ブロックに分かれて予選リーグを行い、西淡は埼玉代表の下落合(＝優勝)のいるブロックで戦ったが、本来の調子がでないま

ま敗れ去った。

全国中学校大会に参加した鷹匠は、かなりの活躍が期待され1回戦で北信越代表の南浜中学を下したあと、2回戦では栃木代表の藤原中学と対戦。個人技、組織プレーなど総合



# 兵庫協会だより

少年と教員チームの国体出場きまる。一般は敗退

今年の青森国体出場を決める関西予選が8月に行われ、兵庫代表は少年と教員チームが出場権を獲得したが、一般チームは大阪に敗れた。少年の部は関西予選出場6チームのうち5チームが国体へ参加できるが、兵庫は滋賀と戦って4対2の快勝、早々と出場を決めた。教員チームは代表決定戦で京都と激しい試合を演じた末、晴れの代表となったが、一般の部は強敵大阪に出場の夢を断られた。

サッカー部は会社の創立と同時に誕生し、特に昭和46年からは会社の積極的な援助もあって、輝かしい戦歴をおさめている。部員たちは長年プレーしてきた兵庫を離れるのはさびしいと言っており、また協会関係者の間にも兵庫のトップチームが消えるのを惜しむ声強い。同部のこれまでの功績をたええと同時に、新天地・水島での活躍を祈りたい。なお、兵庫県社会人リーグの後期は川鉄を除く6チームによって行われる。

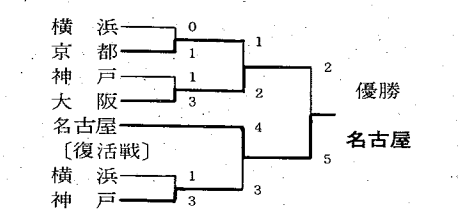
## 神戸、名古屋に惜敗

### 五大都市体育大会サッカー

第28回五大都市体育大会(サッカー)は7月15、16、17日名古屋で行われた。神戸は第1試合で大阪に敗れたあと、復活戦では横浜と顔を合わせ関根のハットトリックで3-1の楽勝。地元の名古屋との試合では、キックオフもない時点で2点のリードを許したが、永浜が前半終了直前と後半の立ちあがりに2点を決め、同点に追いついた。勢いにのる神戸は途中から出場した大和が逆点のシュートを放ち優位に試合を展開したが、連戦の疲れから名古屋に逆転され涙をのんだ。

大谷主務の話 3試合とも先取点を与えて追いかけるという苦しいゲーム展開となり、時間の経過とともにあせりが生じた。前半の終わり近くから調子がでて反撃に転じたが、中盤の選手の運動量が少ないため、ゲームを組み立てることができず敗退した。ここ数年神戸市は不本意な成績が続いており、来年こそはしっかりした準備のもとでチームを編成し、期待にこたえられるようがんばりたい。

【監督】前野正 【主務】大谷輝彦 【審判員】頭木新一 【選手】岡中正安、尾崎泰三、堀江秀幸、平井隆晴、谷修治、河崎弘、大和徹(以上三菱神戸)、吉岡修次郎、関根繁、山本高史、八木重光、永浜和紀、山田一弘(以上兵庫教員)、赤沢秀郎、幸田卓己(以上神戸FC)、上田忠寛(川崎製鉄)



力の高い藤原(＝準優勝)を相手に鷹匠も全力を出しきり、一時は1対1の同点のまま押し引きに進めた場面もあったが、結局2対3で惜敗した。

全国高校総体の神戸は、戦前予想された劣勢をはねかえそうとがんばりをみせたが、パワフルな島原商(＝優勝)の前に屈した。後半になると厚田らを中心に惜しいシュートチャンスも多く互角に戦っただけに、前半の失点が惜しまれる。神戸はスタミナに劣っていたほか、守備のもろさと攻撃のフィニッシュのまづさが目立った。今年は島原商をトップに上位4チームを西日本勢が独占し“西高東低”となったが、近畿の各チームの活躍がもうひとつだった。

全国中学校大会に出場した鷹匠中学

## リーグ戦途中成績

### ＝神戸市社会人リーグ＝

(8月7日現在)

- 1部
- 神戸ライオン 1勝2敗0分、神戸製鋼 1-1-0、神戸市役所 0-2-1、マックエルフ 0-2-0、蔦合クラブ 1-1-0、神大同好会 3-0-0、神戸FCユース 1-1-1、スワロ-FC 2-1-0、双和クラブ 2-1-0
- 2部
- 【A】舞子台クラブ 2勝0敗0分、電々神戸 0-2-1、ビートルズFC 1-2-0、須磨クラブ 2-0-1、神戸スポマン 0-2-0、神戸かつおぶし 1-2-0、川鉄建材 1-1-0、六甲ヒルケル 2-0-0 【B】川重西神戸 0-1-1、KR&AC 0-0-0、南神戸朝鮮 0-1-0、魚崎クラブ 1-0-1、大森廻漕店 1-0-1、神戸FC・A 0-0-2、三菱重工B 0-1-2、川重発本 1-0-1、赤塚山OB 1-1-0
- 3部
- 【A】太陽神戸銀行 1勝2敗0分、川西倉庫 3-0-0、神戸税関 1-1-1、ア-セナル 1-2-0、エンジョイ 0-4-0、兵庫教員B 2-0-0、是則運動 2-1-0、神戸北OB 2-0-1、川鉄蔦合 1-2-0 【B】ケンタッキー 3-0-0、海事検定 2-1-0、兵庫朝鮮 1-1-0、三洋電機 3-1-0、新日本検定 1-2-0、双和OB 0-2-0、ダックス 0-2-0、県職神戸 0-3-0、鶴甲1丁目 2-0-0 【C】阪神変圧器 0-3-0、星陵クラブ 1-1-0、神戸FC・B 2-1-0、神戸ドクターズ 1-1-0、神港クラブ 1-1-1、三菱ユース 1-1-1、ナブコマイティ 2-1-0、あしかびクラブ 3-0-0、三井倉庫 1-1-0 【D】神戸市役所B 2-0-0、神大OB 3-0-0、垂水プレイ 1-1-0、神戸市水道局 0-2-0、大協 2-0-0、西菱エンジ 0-2-0、アパッチ 2-1-0、富久娘 0-4-0、国鉄鷹取 1-1-0 【F】住友ゴム 2-0-0、灘FC 3-0-0、タツクラブ 1-1-0、大同生命 1-1-0、白鶴 1-2-1、ボワイトソックス 2-0-0、光安 0-3-0、クレモナ 1-1-1、三星堂 0-3-0 【G】朝銀信用組合 2-0-0、灘神戸生協 3-0-0、YMCA 1-2-0、R&G 0-3-0、ロジェ 2-0-0、関電神戸 0-2-1、兵庫県庁 1-1-0、富士電機 1-2-1 【E】コーペアーベンツ 2-0-0、三ツ星ベルト 0-3-0、摩庫クラブ 1-2-0、会下山クラブ 2-1-0、川鉄本社 2-1-0、三菱電機 2-0-0、リバーサイド 1-1-0、MSカイザーズ 1-2-0、滝川OB 1-1-0

神戸市社会人リーグ運営会議

9月14(木)

10月13日(木) 11月17日(木) 12月15日(木)

1月19日(木) 2月16日(木) 3月16日(木)

まだまだ低い基礎レベル

岩崎 神戸市の高校サッカーは兵庫県内ではトップレベルに位置してはいるが、全国的にみた場合は十分とはいえない。まず、現状をしっかりとみつけたいと思います。

個 神戸市の高校チームはこれといった特徴がありません。どのチームも同じようなサッカーをやっているような印象を受けますが、レベルアップを図るためには、タイプの異なるチームがしのぎを削って戦うふん困気が必要ではないでしょうか。

吉井 ですから、見ている人が感動をおぼえるような試合はごくわずかです。神戸という都会のサッカーのスマートさが、サッカーの世界では良くない形になって表れているような気がします。走る能力が絶対的に不足しています。

出 席 者

一 北 四郎 理事長

八 城 昭 義 神戸市高

吉 井 敏 夫 兵庫工高

岡 本 隆 雄 須磨高

山 根 由 雄 北須磨高

司 会 岩 崎 壮 光 高校委員長

熱いうちに打て

鍛えるほどに 伸びる高校時代

八 城 サッカーの強い地域たといえば静岡県では、総合力の高いチームがいれば、走力で相手をつぶすという安易な考えは、非常にやわらかい。また、非常にやわらかいテクニクを武器として戦うチームなど、はつきりした特色をもっていますが、どのチームにも共通していることは、基礎がしっかりしていること。その上で独特のカラーをつくりだしているように思えるのです。神戸市のチームに特徴

一 北 集中力の低さもあげられますね。自分のもつていける力を出しきることができない、また前半に3点ぐらいいの差がつくと、もう戦意を失ってしまう傾向があります。

岩崎 いま出されたいろいろな問題を、もう少し深く掘りさげていきたいと思います。

岡本 高校サッカーを語る時、中学を切り離して考えることはできません。同じ中学の選手が、高校に進学すると分散してしまい、中学と高校の間に指導の一貫性がとりにくい問題もありますね。

八 城 少年(小学生)

がなるとすれば、それは基礎レベルが低いからではないでしょうか。

吉井 指導者の好みで決めるのではなく、選手の個性が生かされるチームをつくる、これは当然のことです。また、チームの特徴と指導者の個性との間にも密接な関係があるかもしれません。いわゆる「あく」の強い指導者が少なく、よい意味でも悪い意味でも、指導者同士の仲がよすぎることがあります。

岩崎 いま出されたいろいろな問題を、もう少し深く掘りさげていきたいと思います。

岡本 高校サッカーを語る時、中学を切り離して考えることはできません。同じ中学の選手が、高校に進学すると分散してしまい、中学と高校の間に指導の一貫性がとりにくい問題もありますね。

八 城 少年(小学生)



一 北 中学のサッカーをいかに充実させるかが、神戸市のサッカーレベルを高める上で重要なカギを握ることになります。神戸市協会でもこの問題については、真剣に取り組み覚悟です。

吉井 選手のサッカーに対する意欲も、昔ほどではないようです。日本の代表になるんだ」と大きな目標をもった選手が、はたして何人いるでしょうか。兵庫県内に日本

のサッカーが非常に盛んになつており、その量と質が高いはずなのに、高校のサッカー部に入ってくる生徒の何割かは、中学でボールを触ったことがないという事実を、どう理解すればよいのでしょうか。高校でボールコントロールの初歩から教えるようでは、全国の強豪チームと対等に戦うことは不可能に近いと思いま

「サッカー王国」の名が遠い昔に消え入りそうなる神戸。その再建の事、高校生チームの活躍にかけられている。若い情熱と不屈の努力があれば、けわしい道も必ず開ける。

岩崎 大変すばらしい企画だと思っています。自由なふん困気の中で、指導者が集まって

岩崎 いろいろ複雑な事情もあるようですが、神戸市のサッカー環境を考えると、必ずしも条件が悪いとは言いきれないと思うのです。たとえば、日本リーグの試合や国際試合に接することができると、練習試合の相手にもこと欠かないはずだと思います。

一 北 そうですね。不利な条件をはね返すだけの「やる気」がなければ、道は開けません。

岡本 神戸市には28のチームがありますが、サッカーの専門の先生がチームのめんどろをみているのはその半分ほどです。また、指導者の年齢構成をみると、比較的年輩の方と、20歳代に大きく分かれるのが特徴です。貴重な経験を積まれた方々が、若い指導者にアドバイスと刺激を与え、情報を流す機会を用意することも大切ではないでしょうか。

岩崎 大変すばらしい企画だと思っています。自由なふん困気の中で、指導者が集まって

練習中の不慮の事故に対する指導者の責任を、良心的に考えれば考えるほど、練習の勢いにブレーキがかかります。

岡本 神戸市立の高校で、練習に広いグラウンドが使えるところは限られています。せめて半分の広さでもサッカー部が自由に使いたいもので、すね。キック力の不足も、グラウンドの広さと全く関係がないわけではありません。

岩崎 私たちは現状に立ちどまることは許されません。何ごとに対しても、まずやってみることが大切です。皆様方の協力をお願いして、高校サッカー発展の一大目標をめざしてがんばりたいと思います。本日はどうもありがとうございます。(次回は中学委員会の予定)

山根 選手の父兄と話し合いの場をもつことも大切です。クラブ活動が大学の受験勉強に悪い影響を与えているのではないかと心配されている方も多いため、公式試合などのスケジュールを連絡し、試合のあとわずかな時間でも話しあえば、意外と解決する問題もあるように思います。

一 北 高校生は年齢的にみて、もう大人のプレーができるようになっていかなければなりません。中学で得た基礎の上に、高校では体力を伸ばし個人の総合力を高める上で、重要な年代といえましょう。鍛える」とこの意味をい一度考え直してみることがあります。

岩崎 私たちは現状に立ちどまることは許されません。何ごとに対しても、まずやってみることが大切です。皆様方の協力をお願いして、高校サッカー発展の一大目標をめざしてがんばりたいと思います。本日はどうもありがとうございます。(次回は中学委員会の予定)

ミーティングをもちたいと考えますので、皆様のご協力をお願いいたします。

高橋 年間の公式試合はほとんど全部トーナメント方式のため、目先の勝負にこだわること、結果、長期的な計画のもとで選手やチームを育てることがむずかしい状況にあります。いくつかのチームが集まって、オープンなリーグ戦を開こうという案が以前から出されているが、まだ実現しておりませんが、日程的に苦しい事情もありますが、ぜひやってみたいですね。